

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-136658

(43)公開日 平成11年(1999)5月21日

(51)Int.Cl.⁸

H 0 4 N
7/173
5/44

識別記号

F I

H 0 4 N
7/173
5/44

Z

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全6頁)

(21)出願番号 特願平9-294409

(22)出願日 平成9年(1997)10月27日

(71)出願人 000001889

三洋電機株式会社

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号

(72)発明者 西垣 敦郎

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72)発明者 田中 康治

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72)発明者 田中 一行

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(74)代理人 弁理士 深見 久郎 (外3名)

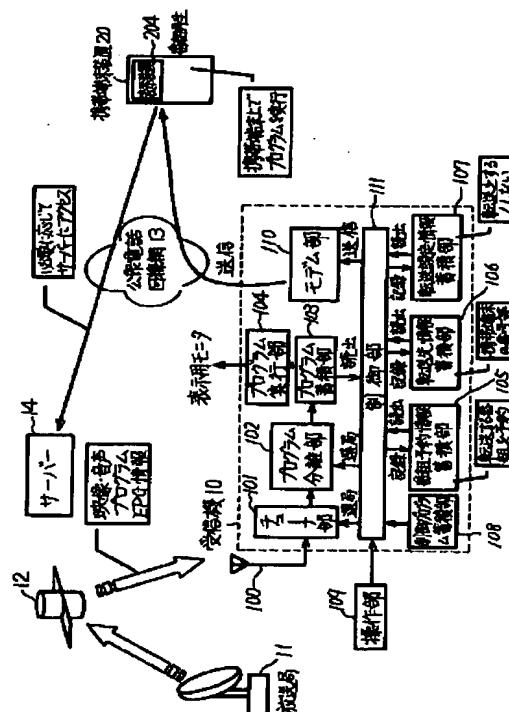
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 転送機能付き双方向TV受信機、およびそのための端末装置

(57)【要約】

【課題】 衛星放送を受信するために必要な大型のパラボラアンテナがなくても外出先で双方向番組の視聴を可能にする双方向TV受信機およびそのための端末装置を提供する。

【解決手段】 携帯端末装置20のアドレスを記憶する転送先情報蓄積部106と、所望の双方向番組の予約情報を記憶する番組予約情報蓄積部105と、予約した双方向番組を受信するためのチューナ部101およびプログラム分離部102と、受信した双方向番組を記憶するプログラム蓄積部103とを備え、予約した双方向番組が受信されてプログラム蓄積部103に記憶されたとき、制御プログラム蓄積部108に記憶された制御プログラムに従ってモデム部110から公衆電話回線網13を介して携帯端末装置20にその双方向番組を転送するようとする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】放送局から送信されるアプリケーションプログラムからなる双方向番組を受信する受信手段と、前記受信手段により受信された双方向番組を公衆回線網を介して外部の端末装置に転送する転送手段とを備える、転送機能付き双方向TV受信機。

【請求項2】前記端末装置のアドレスを記憶する記憶手段をさらに備える、請求項1に記載の転送機能付き双方向TV受信機。

【請求項3】前記放送局から送信される双方向番組のうち所望の双方向番組を予約する予約手段をさらに備える、請求項1または請求項2に記載の転送機能付き双方向TV受信機。

【請求項4】前記受信手段により受信された双方向番組を前記転送手段により転送するか否かを設定する設定手段をさらに備える、請求項1から請求項3のいずれかに記載の転送機能付き双方向TV受信機。

【請求項5】放送局から送信されるアプリケーションプログラムからなる双方向番組を受信しつつその受信した双方向番組を公衆回線網を介して外部に転送する転送機能付き双方向TV受信機のための端末装置であって、前記双方向TV受信機から転送された双方向番組を受信する受信手段と、

前記受信手段により受信された双方向番組を記憶する記憶手段と、

前記記憶手段に記憶された双方向番組を実行する実行手段とを備える、転送機能付き双方向TV受信機のための端末装置。

【請求項6】前記公衆回線網を介した双方向番組は電波で送信され、前記受信手段は前記双方向番組を電波で受信する、請求項5に記載の転送機能付き双方向TV受信機のための端末装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、転送機能付き双方向TV(テレビジョン)受信機、およびそのための端末装置に関し、さらに詳しくは、放送局から送信されるアプリケーションプログラムからなる双方向番組をダウンロードして実行しつつその双方向番組に従って外部と通信することが可能な双方向TV装置における受信機、およびそのための端末装置に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、放送のデジタル化によりデジタル圧縮された複数の映像や音声を1つの搬送波で放送することが可能となり、アナログ方式の放送の数倍のチャネル数が同一周波数帯域で確保できるようになっている。さらに、そのデジタル映像や音声にデジタルデータを多重して放送することが容易になっている。その結果、チケット予約などのためのアプリケーションプログラムからなる双方向番組をダウンロードして実行する

双方向TV装置が提案されている(米国特許第5,233,654号参照)。双方向TV装置は、たとえば特開平8-46950号公報に記載されるような形式で放送される双方向番組を受信して実行し、その双方向番組に従ってチケット予約などに必要な情報を入力した後、予約センターなどのサーバに接続してその入力した情報を送信することが可能である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、衛星放送の場合、双方向番組を受信するためには直径数10センチメートルのアンテナが必要になることから、携帯型の双方向TV装置の実現が困難であった。そのため、上記チケット予約のための双方向番組が放送されるときに不在の場合は、チケットの予約申込を速やかに行なうことができなかつた。

【0004】それゆえに、この発明の目的は、外出先からでも双方向番組の視聴を可能にする転送機能付き双方向TV受信機、およびそのための端末装置を提供することである。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明に従った双方向TV受信機は、放送局から送信されるアプリケーションプログラムからなる双方向番組を受信する受信手段と、受信手段により受信された双方向番組を公衆回線網を介して外部の端末装置に転送する転送手段とを備える。

【0006】好ましくは、上記双方向TV受信機はさらに、端末装置のアドレスを記憶する記憶手段を備える。

【0007】好ましくは、上記双方向TV受信機はさらに、放送局から送信される双方向番組のうち所望の双方向番組を予約する予約手段を備える。

【0008】好ましくは、上記双方向TV受信機はさらに、受信手段により受信された双方向番組を転送手段により転送するか否かを設定する設定手段を備える。

【0009】この発明に従った端末装置は、放送局から送信されるアプリケーションプログラムからなる双方向番組を受信しつつその受信した双方向番組を公衆回線網を介して外部に転送する転送機能付き双方向TV受信機のための端末装置であつて、双方向TV受信機から転送された双方向番組を受信する受信手段と、受信手段により受信された双方向番組を記憶する記憶手段と、記憶手段に記憶された双方向番組を実行する実行手段とを備える。

【0010】好ましくは、上記端末装置において、公衆回線網を介した双方向番組は電波で送信され、受信手段は双方向番組を電波で受信する。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施の形態を図面を参照して詳しく説明する。なお、図中同一または相当部分には同一符号を付してその説明は繰返さない。

【0012】図1は、この発明の実施の形態による転送

機能付き双方向TV受信機およびそのための端末装置の構成を示すブロック図である。図1を参照して、この転送機能付き双方向TV受信機10は、パラボラアンテナ100と、チューナ部101と、プログラム分離部102と、プログラム蓄積部103と、プログラム実行部104と、番組予約情報蓄積部105と、転送先情報蓄積部106と、転送設計情報蓄積部107と、制御プログラム蓄積部108と、操作部109と、モード部110と、制御部111とを備え、放送局11から人工衛星12を介して送信される衛星放送を受信するためのものである。この受信機10を表示用モニタに接続すれば、双方向TV装置を構成することができる。

【0013】ここで、衛星放送で送信される番組には、映像および音声で構成される通常の一方向番組の他、チケット予約やEPG (Electric Program Guide; 電子番組ガイド)などのアプリケーションプログラムで構成される双方向番組がある。一般に、このような双方向番組は通常の一方向番組に多重されて放送される。

【0014】パラボラアンテナ100は上記のような衛星放送を受信し、チューナ部101はその中から所望の番組を選局する。プログラム分離部102は、その選局された番組から双方向番組を分離し、プログラム蓄積部103に記録する。プログラム実行部104は、プログラム蓄積部103に記録された双方向番組を実行し、この受信機10に接続されたモニタ上に表示する。

【0015】番組予約情報蓄積部105には、予約された双方向番組の名称、チャネル、放送時間などが記録される。転送先情報蓄積部106には、プログラム蓄積部103に記録された双方向番組を転送する端末装置20の電話番号などのアドレスが記録される。転送設定情報蓄積部107には、双方向番組を転送するか否かの情報が記録される。制御プログラム蓄積部108には、双方向番組を転送するための制御プログラムが予め記録されている。

【0016】操作部109は、キー入力に応じて制御部111をリモートコントロールで操作する。モード部110は、この受信機10を公衆電話回線網13に接続し、双方向番組を公衆電話回線網13を介して携帯端末装置20に転送する。制御部111はCPU(中央演算処理装置)で構成され、受信機10の上述した内部回路全体を制御する。なお、公衆電話回線網13に代えて、インターネットその他の公衆回線網に接続するようにしてもよい。

【0017】図2は、図1に示された携帯端末装置20の構成を示すブロック図である。図2を参照して、この携帯端末装置20は、通信インターフェイス(I/F)201と、プログラム蓄積部202と、プログラム実行部203と、表示装置204と、操作部205と、制御部206とを備え、双方向TV受信機10から転送された双方向番組を実行するためのものである。

【0018】通信インターフェイス201は、公衆電話回線網13を介して電波で送信された双方向番組を受信する。プログラム蓄積部202には、通信インターフェイス201により受信された双方向番組が記録される。プログラム実行部203は、プログラム蓄積部202に記録された双方向番組を実行し、液晶表示パネルなどの表示装置204上に表示する。操作部205は、キー入力に応じて制御部206を操作する。制御部206はCPUで構成され、上述した携帯端末装置20の内部回路全体を制御する。なお、通信インターフェイス201は、実行された双方向番組に従ってキー入力された情報を公衆電話回線網13を介してサーバ14に送信することも可能である。

【0019】次に、上記のように構成された双方向TV受信機10および携帯端末装置20の動作を説明する。

【0020】まず、双方向番組の転送先として携帯端末装置20の電話番号などのアドレスを操作部109に入力すると、そのアドレスは制御部111により転送先情報蓄積部106に記録される。このアドレスは受信機10の電源を遮断した場合でも消失しない方が望ましいため、転送先情報蓄積部106はEEPROMなどの不揮発性メモリで構成される。

【0021】次に、制御プログラム蓄積部108に記録されている図3の制御プログラムに従って制御部111がこの受信機10の内部回路を制御する。

【0022】まずステップS1で、EPGが受信され、記憶される。より具体的には、チューナ部101によりEPGを含む番組が選局され、その選局された番組がデジタルビットストリームでプログラム分離部102に与えられ、その番組からプログラム分離部102によりEPGが分離され、プログラム蓄積部103に記録される。

【0023】続いてステップS2で、所望の双方向番組が予約される。より具体的には、プログラム蓄積部103に記録されたEPGのアプリケーションプログラムがプログラム実行部104により実行され、モニタ上に番組表が表示される。視聴者がこの番組表に基づいて操作部109にキー入力し、所望の双方向番組を選択すると、その選択された双方向番組の名称、チャネル、放送時間などが制御部111により番組予約情報蓄積部105に記録される。もちろん、複数の双方向番組を選択すれば、複数の双方向番組を予約することも可能である。

【0024】続いてステップS3で、この受信機10で受信した双方向番組を携帯端末装置20に転送するか否かが設定される。より具体的には、上記選択した双方向番組を転送する場合は、操作部109へのキー入力により転送機能をオンにする。これにより、その選択された双方向番組を転送することを示す情報が制御部111により転送設定情報蓄積部107に記録される。他方、選択した双方向番組を転送しない場合は、操作部109へ

のキー入力により転送機能をオフにする。これにより、その選択された双方向番組を転送しないことを示す情報が制御部111により転送設定情報蓄積部107に記録される。

【0025】続いてステップS4で予約された双方向番組が受信され、ステップS5でその双方向番組が記憶される。より具体的には、内部タイマ(図示せず)が番組予約情報蓄積部105に記録された双方向番組の放送開始時間になると、転送先情報蓄積部106に記録されたその双方向番組のチャネルに従ってチューナ部101によりその双方向番組が選局され、プログラム分離部102により分離され、プログラム蓄積部103に記録される。すなわち、予約された双方向番組がダウンロードされる。内部タイマが番組予約情報蓄積部105に記録された双方向番組の放送終了時間になると、上記ダウンロードが終了する。

【0026】なお、ここでは番組の放送時間を記録しているが、放送時間が変更された場合でも予約した番組の正確なダウンロードを可能とするために、双方向番組とともに多重されたVPSなどの番組識別コードを記録するようにしてもよい。

【0027】予約された双方向番組のダウンロードが完了すると、ステップS6で、そのダウンロードされた双方向番組を転送するか否かが判断される。より具体的には、転送設定情報蓄積部107からその双方向番組を転送するか否かを示す情報が制御部111により読み出され、その読み出された情報が転送することを示している場合は、ステップS7で転送先情報蓄積部106から携帯端末装置20のアドレスが読み出される。この読み出されたアドレスに従ってモデル部110は携帯端末装置20を発呼し、この受信機10を公衆電話回線網13を介して携帯端末装置20に接続する。

【0028】続いてステップS8で、プログラム蓄積部103に記録された双方向番組が携帯端末装置20に転送される。より具体的には、制御部111によりプログラム蓄積部103から双方向番組が読み出され、その読み出された双方向番組がモデル部110および公衆電話回線網13を介して携帯端末装置20に送信される。ここで、双方向番組は公衆電話回線網13から電波によって携帯端末装置20に送信される。

【0029】他方、ステップS6で、転送設定情報蓄積部107から読み出された情報が双方向番組を転送しないことを示している場合は、転送先情報蓄積部106からアドレスが読み出されることもなく、また、プログラム蓄積部103から双方向番組が読み出されて携帯端末装置20に転送されることもない。

【0030】次に、図2に示された携帯端末装置20の動作を説明する。双方向TV受信機10から転送された双方向番組は制御部206により通信インターフェイス201で受信され、プログラム蓄積部202に記録され

る。続いて、操作部205へのキー入力に応じてプログラム蓄積部202に記録された双方向番組がプログラム実行部203により実行され、その実行結果が表示装置204上に表示される。

【0031】双方向番組がたとえばチケット予約のためのアプリケーションプログラムの場合、アーティストの名称、コンサートの開催日時、コンサート会場、座席、金額などが表示される。視聴者がこのコンサートのチケットを購入しようとする場合は、操作部205へのキー入力により所望の項目を選択する。これにより、通信インターフェイス201はチケット予約を受付けるサーバ14(図2)を発呼し、この携帯端末装置20を公衆電話回線網13を介してサーバ14に接続する。そして、チケット予約に必要な情報がサーバ14に送信される。

【0032】以上のように、この発明の実施の形態によれば、双方向TV受信機10は受信した双方向番組を公衆電話回線網13を介して携帯端末装置20に転送する機能を備えているため、携帯端末装置20で双方向番組を視聴することができる。また、携帯端末装置20のアドレスが双方向TV受信機10内に予め記憶されているため、モデル部110はこの双方向TV受信機10を自動的に携帯端末装置20に接続することができる。また、所望の双方向番組を予約することも可能であるため、所望の双方向番組が放送されるときにこの双方向TV受信機10を設置した自宅に視聴者がいない場合でも、視聴者は外出先で携帯端末装置20を用いて双方向番組を視聴することができる。そのため、チケット予約などのサービスを享受する機会を失うことはない。

【0033】また、受信した双方向番組を転送するか否かを設定することも可能であるため、転送不要な双方向番組が無駄に携帯端末装置20に転送されることはない。また、双方向番組が公衆電話回線網13を介して電波で携帯端末装置20に送信されるため、電波の受信可能な領域内であればどこでも携帯端末装置20を用いて双方向番組を視聴することができる。

【0034】

【発明の効果】この発明に従った転送機能付き双方向TV受信機によれば、受信された双方向番組を公衆電話回線網を介して外部の端末装置に転送するようにしたため、大型のアンテナを持たない端末装置でも双方向番組を視聴することができる。

【0035】また、端末装置のアドレスを記憶するようにしたため、この双方向TV受信機を自動的に端末装置に接続することができる。

【0036】また、所望の双方向番組を予約可能にしたため、所望の双方向番組が放送されるときに自宅にいない場合でも外出先から端末装置で双方向番組を視聴することができる。

【0037】また、双方向番組を転送するか否かを設定するようにしたため、転送不要な双方向番組を無駄に転

送することができない。

【0038】一方、この発明に従った転送機能付き双方向TV受信機のための端末装置によれば、双方向TV受信機から転送された双方向番組を受信し、記憶し、かつ実行するようにしたため、大型のアンテナを持たない端末装置で双方向番組を視聴することができる。

【0039】また、双方向番組が公衆電話回線網から電波で送信され、端末装置はこの双方向番組を電波で受信するようにしたため、電波の届く領域内であればどこでもこの端末装置で双方向番組を視聴することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の実施の形態による転送機能付き双方向TV受信機およびそのための携帯端末装置の構成を示すブロック図である。

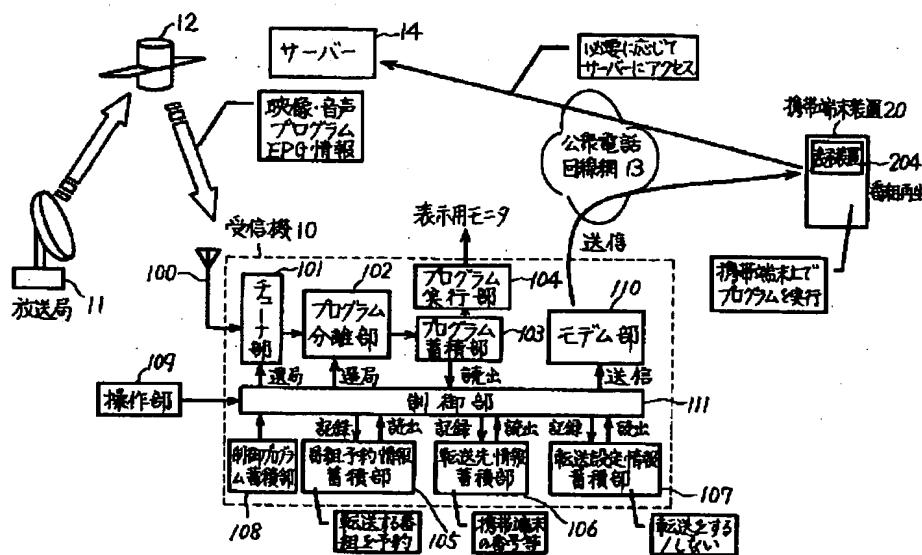
【図2】図1に示された携帯端末装置の構成を示すブロック図である。

【図3】図1に示された双方向TV受信機内の制御プログラム蓄積部に予め記録されている制御プログラムの構成を示すフローチャートである。

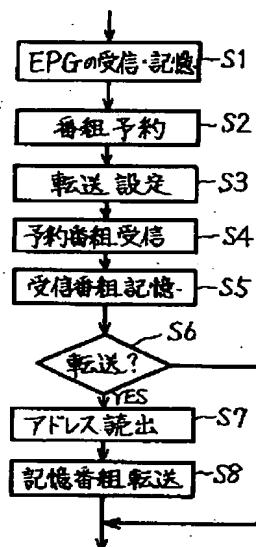
【符号の説明】

- 10 転送機能付き双方向TV受信機
- 11 放送局
- 12 人工衛星
- 13 公衆電話回線網
- 20 携帯端末装置
- 100 パラボラアンテナ
- 101 チューナ部
- 102 プログラム分離部
- 103 プログラム蓄積部
- 104 プログラム実行部
- 105 番組予約情報蓄積部
- 106 転送先情報蓄積部
- 107 転送設定情報蓄積部
- 108 制御プログラム蓄積部
- 109 モデム部
- 110 制御部
- 111 通信インターフェイス
- 201 携帯端末装置

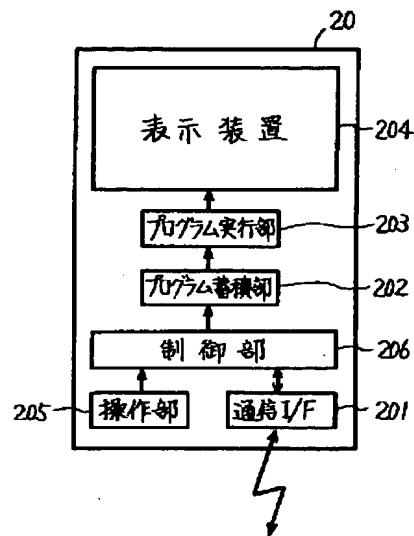
【図1】



【図3】



【図2】



フロントページの続き

(72)発明者 岡田 誠

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内

(72)発明者 今里 功

大阪府守口市京阪本通2丁目5番5号 三
洋電機株式会社内